



三沢厚彦が誘う彫刻の「多次元」世界

- 200点を超える彫刻・絵画で、これまでの三沢厚彦、これからの三沢厚彦を知る。
- 千葉市美術館の建築、コレクションとのコラボレーションによって、ここでしか見られない展示に。
- 作家が展示室で新作を制作!会期中も変わり続ける展示をお見逃しなく。
- 作家によるギャラリートークや展示室でのライブなど多彩な関連イベントも。

会 期 2023年6月10日(土)―9月10日(日)

開館時間 10:00―18:00(金・土曜日は20:00まで)※入場受付は閉館の30分前まで

休 室 日 6月12日(月)、19日(月)、26日(月)、7月3日(月)、10日(月)、18日(火)、8月7日(月)、21日(月)、9月4日(月)
※第1月曜日は休館日

観 覧 料 一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)、小・中学生、高校生無料

※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金 ※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:31188)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて6月9日まで販売(6月10日以降は当日券販売)。

◎リピーター割引:本展チケット(有料)半券のご提示で、会期中2回目以降の観覧料半額 ◎ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18:00以降は観覧料半額

◎本展チケットで5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

主 催 千葉市美術館 協力 西村画廊、アニマルハウス、山口製材株式会社

記者レクチャー・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。展示会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧いただけます。

当日は作家の三沢厚彦も来場予定です。

6月9日(金)15:00-18:00(14:30開場)／8階展示室にて

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。



展覧会概要



三沢厚彦(1961-)は動物を樟で彫り、油絵具で彩色する「ANIMALS(アニマルズ)」シリーズで知られる日本を代表する彫刻家です。京都で生まれ育ち、幼い頃から仏像や寺社に親しんだ三沢は、東京藝術大学および同大学院で彫刻を学び、1990年代に流木などを寄せ集めて制作された「コロイドトンプ」シリーズで注目を浴びます。人間の想像力への関心から、2000年より始められた「ANIMALS」では、動物のリアリティを追求していく革新的な造形が、高く評価され、全国各地で多くの人々を虜にしてきました。

「三沢厚彦 ANIMALS/Multi-dimensions」は、三沢による千葉県初となる個展です。本展では「多次元」をテーマに、大谷幸夫の設計による千葉市美術館すべてが展示会場となります。そこに棲んでいたかのように親しみやすく、時にどう猛な動物たちに、来場者はさまざまな場所で遭遇することでしょう。この場所だけでしか体験できないサイト・スペシフィックな展示方法もまた、作品と空間の関係への作家独自の思考を示しています。1990年代の初期未発表作から最新作まで、200点を超える彫刻と絵画により、当館の建築物にアプローチしていきます。

21世紀に入り、木彫による具象彫刻、さらには現代アートの分野を牽引してきた三沢は、近年では空想上の生き物である麒麟やキメラといった複数の動物のイメージを組み合わせる表現に発展し、大型の木彫を精力的に制作しています。時空を軽やかに飛び越え、現代の私たちの前にあらわれるキメラたちは、その眼差しでいまの世界を見つめ、何を語るのでしょうか。会期中には、作家の滞り制作も予定されています。三沢のキメラ的思想によって、生が吹き込まれていく本展をぜひお楽しみ下さい。

■ 本展の見どころ

● 200点を超える彫刻・絵画でこれまでの三沢厚彦、これからの三沢厚彦を知る

等身大の動物をモチーフとした木彫作品で知られる彫刻家・三沢厚彦。本展では千葉市美術館の建築や場所から導き出された「多次元」をテーマに、1990年代の初期未発表作から、代表作である「ANIMALS」シリーズ、そして空想上の生き物であるキメラなどの最新作まで200点を超える彫刻、絵画を紹介し、これまでの三沢の仕事を総覧するとともに、これからの三沢の彫刻世界を提示します。

● 千葉市美術館の建築、作品とのコラボレーションによって、ここでしか見られない展示に

千葉市美術館は、大谷幸夫によって戦前の銀行建築を保存したさや堂ホールや、階段状に設計された建築も特徴の一つとなっています。本展ではさや堂ホールをはじめ、建物内のさまざまな場所に三沢作品が設置されるほか、建築から想起された作品ラインナップや構成をご覧いただけます。また当館コレクションとのコラボレーションによる新作も披露され、千葉市美術館でしか体験できない三沢厚彦の世界をお楽しみいただけます。

● 作家が展示室で新作を制作! 変わり続ける展示をお見逃しなく

会期中も「中庭部屋」と名付けた会場内の制作室で、三沢厚彦が新作の制作や自身の作品の補修などを行います。変化し続ける展覧会を、ぜひ何度も足を運んで体験してください。※2回目以降の観覧料が半額になるリピーター割引も実施

● 作家によるギャラリートークや展示室でのライブなど多彩な関連イベントも

閉館後に特別に行われる作家自身によるギャラリートークや、三沢と親交のある音楽家・山本精一による展示会場でのライブパフォーマンスなど多彩なイベントを開催します。



■ 作家からのメッセージ

1927年につくられ、もともとこの場所にあった川崎銀行千葉支店をさや堂ホールとして保存し、包み込むように、そして、そこから上へと設計された千葉市美術館は多様性を強く感じさせる建築物という印象をもった。

住宅を設計する際には中庭から考える、という大谷幸夫の設計思想から古くからこの場所にあったさや堂ホールと、テーマを変えながら常に動き続けて美術作品を見せる場所である美術館を中庭として見立てて発想されたのかもしれない。

京都は宝が池にある、国立京都国際会館も大谷幸夫の設計によるもので、当時は「えらい建物が宝が池に出来た」と小学生のわたしの耳に入るほど話題になっていた。エッジの効いた抽象形態が複雑に組み合わせられた大きく、先進的で強いインパクトを放つ建築物だった。小学生の頃、遠足で訪れて強い衝撃を受けた記憶がある。千葉市美術館はそれほど派手ではないがファサードは段状に上へと誘われるようなシンメトリックな構造で、中心から上方には蓮の花のレリーフがかかげられ、ある種の象徴性と多次元性を強く感じさせる。現在この歳になり、大谷建築と再会するのにもやらない不思議な縁だ。

いざ展示となるとなかなか手強い美術館だ。幾度か下見とリサーチを兼ねて訪れるうちに幾つかのキーワードを思いつくことに至った。それは「多様性」「多次元性」「中庭」「シンクロニシティ(共時性)」。それらをテーマに作品のラインナップと構成を考える事にした。私の作品と私自身がこの独自性の極めて強い千葉市美術館とどんな関係性を結ぶのが今から楽しみだ。

■ 三沢厚彦プロフィール



1961年京都府生まれ。幼少期から京都や奈良の仏像に親しむ中で、彫刻の魅力に惹かれ、彫刻家を志す。高校、大学と彫刻科で学び、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻を修了。小学生の頃からポピュラーミュージックにも親しみ、音楽に対する造詣も深い。2000年に動物の姿を等身大で彫った木彫「ANIMALS」シリーズの制作を開始。同年より西村画廊(東京)で個展開催。2007年から「三沢厚彦 ANIMALS+」展が平塚市美術館を皮切りに全国5会場を巡回。その後も現在まで各地の美術館で個展を多数開催。

主な受賞歴に2001年第20回平瀬田中賞受賞。2005年第15回タカシマヤ美術賞受賞。2019年第41回中原悌二郎賞受賞。現在、神奈川県在住。武蔵野美術大学造形学部彫刻学科特任教授。

■ 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。
ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。
画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1 三沢厚彦《Animal 2020-03》2020年
©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery



2 三沢厚彦《Animal 2011-01》2011年
©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery Photo by Uchida Yoshitaka



3 三沢厚彦《Animal 2016-01》2016年
©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery



4 三沢厚彦《Animal 2012-01》2012年 ©Misawa Atsuhiko
Courtesy of Nishimura Gallery Photo by Kato Ken



5 三沢厚彦《Animal 2018-01》2018年
©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery Photo by Onumura Shoji



6 三沢厚彦《Animal 2022-03》2022年
©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery



7 三沢厚彦《Painting 2022-03》2022年
©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery Photo by Okano Kei



8 三沢厚彦《Painting 2022-32》2022年
©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行

FAX : 043-221-2316
E-mail : isono@ccma-net.jp

貴社名 :	媒体名 :
ご担当者名 :	発行予定日 :
TEL :	発行部数 :
FAX :	定価 :
Email :	掲載予定コーナー名等 :
画像到着希望日 : 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例 : 5cm 四方、など)</small> :

■画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

- 1 三沢厚彦《Animal 2020-03》2020年 ©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery
- 2 三沢厚彦《Animal 2011-01》2011年 ©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery
Photo by Uchida Yoshitaka
- 3 三沢厚彦《Animal 2016-01》2016年 ©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery
- 4 三沢厚彦《Animal 2012-01》2012年 ©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery
Photo by Kato Ken
- 5 三沢厚彦《Animal 2018-01》2018年 ©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery
Photo by Onumura Shoji
- 6 三沢厚彦《Animal 2022-03》2022年 ©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery
- 7 三沢厚彦《Painting 2022-03》2022年 ©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery
Photo by Okano Kei
- 8 三沢厚彦《Painting 2022-32》2022年 ©Misawa Atsuhiko Courtesy of Nishimura Gallery

■「三沢厚彦 ANIMALS/Multi-dimensions」 プレゼント用招待券申込 (ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組10名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先

ご住所 : 〒

問い合わせ先

千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

広報担当 : 磯野 愛

Tel. 043-221-2311 (代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail isono@ccma-net.jp

HP <https://www.ccma-net.jp/>

Misawa 三沢
Atsuhiko 厚彦
ANIMALS
Multi-Dimensions

記者レクチャー・内覧会 6月9日(金) 15:00～18:00 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。
展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。
当日は作家の三沢厚彦氏も来場予定です。

[タイムスケジュール(予定)]

14:30～ 記者レクチャー会場へのエレベーター稼働・開場
15:00～ 担当学芸員より会場にてご説明
15:20～ 自由内覧

参加ご希望の方は下記項目にご記入の上、

FAX: 043-221-2316 または **E-mail: isono@ccma-net.jp**

までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail
